

社団法人 豊中市シルバー人材センター機関誌

ふれあい 第6号

豊中市北桜塚2丁目2番1号

編集・発行

社団法人 豊中市シルバー人材センター

TEL (06)856-1777(代)



本年2月5日、関 春夫氏(関 造園土木社長)を講師にお迎えし、葉刈の講習会を開催。会員12人が出席して、寒風の中、熱心に受講しました。

会員登録をお忘れなく

更新時期です!!

◎昭和62年度の会員登録を引き続き希望される方は、新たに更新手続きが必要ですので、必ず左記の手続きを済ませてください。

▼期間

4月1日から4月20日まで

▼方法

会員証と年会費六〇〇円を添えて、必ず事務局まで、ご本人がお越しください。

(どうしても都合のつかない方は、事務局まで必ずご連絡ください。)

また、登録内容(希望職種・住所、電話番号等)に変更があった方は、その旨を事務局までお申し出ください。

なお、退会を希望される方は、お手数ですが会員証と退会届を、必ずご提出ください。



五月二十一日に開催

昭和六十二年通常総会

市民会館で

▼昭和六十二年通常総会を来る五月二十一日(休)午前十時三十分から、市立市民会館(大集会室)において開催いたしますので、是非ご出席下さい。
 なお、当日どうしても都合が悪く、出席できない場合は、事前に議案書(もしくは資料)と、委任状を配付しますのでお手数ですが、必ず委任状を事務局(もしくは、地域班役員)までお届け下さい。

「地域班」活動が

スタートしました!!

会員同志のふれあいを

会員相互の仲間意識を深め、皆様方の声をシルバー人材センターの運営に生かすため、地域班が十二月に設置されました。

地域班は、中学校区を単位として合計十八班で組織され、班ごとに地域班役員として、地域委員と地域世話人が設置され、地域班の運営にあたります。地域班役員が「事務局だより」や配分金明細書の配布を兼ねて、皆様方を

訪問しますので、ご意見や情報の交換を積極的にしていただき、会員のコミュニケーションづくりにご協力をお願いします。

また、事務局等に対する、ご意見、ご要望も役員さんに話していただければと思っております。

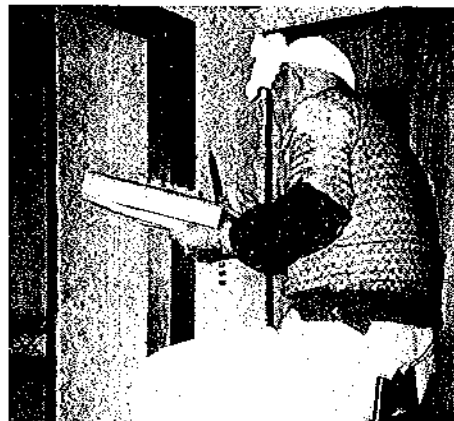
地域班を、会員の自主的な運営による組織づくりの第一歩として、今後、レクリエーション活動や文化活動等、

互助会組織、職群班組織、福祉活動等とその輪を拡げ、健康で明るく楽しいシルバー人材センターづくりに、会員の皆様と共に頑張ってくださいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

尚、地域委員さんの名簿は次のとおりです。

第1班	西田 貞義	8 6 4 1 9 1 0 0
第2班	上田 善治	8 5 5 1 0 1 6 7
第3班	西川 芳一	8 5 4 1 1 2 7 4
第4班	谷脇 次男	8 6 4 5 9 7 0
第5班	郡 清一	8 5 7 1 7 2 9 4
第6班	兼尾菊太郎	3 3 3 1 3 9 9 4
第7班	穂崎政治郎	3 3 3 1 0 1 4 8
第8班	福田 茂	8 7 2 1 1 6 0 5
第9班	石田 毅	8 3 2 1 6 9 8 6
第10班	北林 善慈	3 3 2 1 2 4 5 7
第11班	深田 稔	8 5 4 1 4 1 8 8
第12班	近藤清一郎	3 3 4 1 5 9 1 0
第13班	山路 政市	8 4 4 1 1 4 4 3
第14班	原田 幸治	8 5 5 1 2 1 6 8
第15班	野村 貞人	8 5 2 1 0 0 7 0
第16班	正源 義一	3 3 2 1 6 1 1 4
第17班	退会により欠員	
第18班	東 武雄	8 4 1 1 1 8 1 8

わた壁を塗るのも手慣れたもの



無料の職業紹介事業開始

無料の職業紹介事業を一月から実施しております。

臨時的、短期的な「雇用」による就業を希望される方は、事務局までお尋ねください。

みんなの広場

生きがいを求めて

山 路 政 市

昨年の十月一日に、社団法人シルバー人材センターの法制化が実現され、誠に喜ばしい限りであります。

豊中市にシルバー人材センターが発足して間もなく入会、早五年を過ぎました。入会時希望の職種(事務)に会員が多く、事務局の勤めと趣味の点で屋外作業の除草でスタート、約一年後から園芸班葉刈り作業に従事しております。

当初経験も浅く、不安と杞憂が交錯し、高所作業に足はガクガク、全身に冷汗をかくこともありましたが、そんな私を発注者のご理解と技能、経験共に豊かな仲間の西岡、中川、岡田会員らに支援され、どうにか未熟さを返上することが出来、感謝の気持です。これからも仲間同志が親睦を深め、相互啓発につとめ会員として恥じないよう心がけたいと思います。年毎に受注件数が増加し(昨年は約二百件)、受

注と発注の「バランス」が悪く、そのため発注者にご迷惑をかけております。事務局としても対策は考えていると思いますが、この作業の会員が少く、会員の養成、配分金の見直しなど早急な対策が望ましいと思います。

仲間の会員も私より年輩者であり健康が気掛りになりますが、働く事により生活にリズム感が生じ、精神的に「はり」が出て健康にプラスになることはいうまでもありません。私も「未知への挑戦」から学ぶことに魅力を感じ、作業を通じて今までに得た体験こそ掛替えない大きな収穫であります。

あとになりましたが事務局のご配慮とお世話下さる職員の皆さんに深く感謝申し上げます。

感二入会一

社法 豊中 白髪盟
就労 日日 寸心明
光陰 老大 身猶健
同好 相逢 感此生

社団法人豊中シルバー人材センターから作業する事により心も明るく、歳月と

共に齢をとるが生きがいを感している。

組織とコミュニケーション

西 川 芳 一

高度成長から低成長に加え、高齢化社会が進むにつれシルバー会員の能力開発と人材活用が当然のことながら最近とみに喧しく論じられている。地方行政、地域社会も惜しみなく後押しをシルバー人材センターに与えている。ここに、組織・集団が生まれ新しく人間関係と共にコミュニケーションが派生する。

嘗て男女の「あいびき」という生臭いコトバは、途中で「ランデブー」を経て、今では「デート」と軽やかに発音されるようになった。ところで、表現が変わったという事は、実態まで変わったのだろうか。実態はそのまま現代的に表現だけ先行しているからではないだろうか。

職場の女性が、BGからOLの時代に、新入社員はフレッシュ・マンとして迎えられるようになったが、早い話、OLといってもLにふさわしいのは、スタイルと化粧だけで、実質的にはどうだろうか?。人間関係の処理やコミュニケーションの交流は、日本が農業

国家であった時代と比べてどれほど進歩したのだろうか。

事実、活動的な集団(組織)はコミュニケーションも上から下、下から上横と横が活発で迅速正確にいろいろな情報や意志が疎通し、職務の異なった同志も適時適量にコミュニケーションが飛び交う。要するにコミュニケーションのパイプが錆付いていることはい。だからこそ自分の置かれた位置が重要であればある程コミュニケーションに関心を持たなければ、与えられた役割が果たせないの、いやでもコミュニケーション能力が身につく、身についたコミュニケーション能力によってさらに的確な役割を果たして行く。

コミュニケーションのパイプが錆付けばうまくいかなくなる。それは一口でいえば集団(組織)は生身の人間の集まりであり、感情の動物の集合であること。もう一つは役割が分化し専門化されていることが、コミュニケーションを歪曲したり、停滞したり、不当に判断されたり、隠匿されたりするのである。集団とコミュニケーションはこのような促進と停滞、正解と誤解など相反する面を絶えず内包する結合と言える。

いろいろ考えてみると「衣だけでは和尚になれぬ」という言葉を幼いころに常々教えられたことが頭にちらつく。

春を待つ心

平田輝夫

今年も鉢の白梅が花をつけた。暖冬のせいであろうか、二十日も早く咲き始めたのでおどろかされた。

風のない午後のひと時、窓の前方の遠い山脈が青々と美しく、少しかすんで見えることがある。そういえば、白い先にもいく分やわらかさがあるように見えることもある。

庭隅の黒い土をもたげ、竹へらのような青い水仙の芽も出ているではないか。無雑作に伸びた南天に、すずなり赤い実が揺れるのも、また美しいものである。

風はまだまだ冷たいが、空の色、雲の流れに一步一步春の到来を感じさせる今日この頃である。

花が咲き、春が到来したとて別に何がどうなるというものではないが、自然の推移の中に生きる喜びのようなものを与えてくれるのである。

白い木蓮が開き、土筆やタンポポが咲く日もそう遠い日のことではあるま

い。春を待つのは私一人でもなさそうである。

ものなべて

平田輝夫

やうやくに水の底ひにも春生れて先づけく魚ら受胎す

シクラメンの絵皿がかもす春の彩あした夕べの心になごむ

水温む沼の浅瀬の日だまりに水すまし出でて水脈青くひく

春の使者ワルツを奏で静寂の森のさ中を勇みて来たり

ものなべて透ける夕べを見知らざる街遠々と茜に染みぬ

出会い

谷脇次男

少年時代に見る本と言え、少年俱樂部、学校の教科書など殆ど、見ず読まず、漫画ばかり。当時、大人の雑誌

に、講談倶楽部、キング、があり、その中で、谷脇素文画の、漫画川柳を一番に見た。これは、同じ谷脇姓で「後

に同郷と分かり」、それが、とても親しみが持てたからだ。其の内容は、年令



丁寧な仕事で市民に好評

的に余り「ピン」と来なかったが「うがち」「風刺」「皮肉」それらが、一口漫画によって、子供心に、面白、おかし、焼き付いていった。

これが、私と川柳の出会いである。

お正月のお年玉で、毎年日記帳を買った。三日坊主に終るのはよく分っていたが、母や姉に、下手な字を笑われ……「クソー」その反発で……、これを繰り返しながら、だんだんと、日記も続くようになり、そして、その

一行に、川柳とはとても言えない、十七文字が、行間をたまに埋めるようになった。

平和な世の中も、物資の配給制度に変わり、暗い世相、運動と栄養の、アンバランスから胸を病む。そして入院、松林の中に点在する、小さな小屋での療養生活。それは、病状に依り、農耕を主にした作業療養である。ここで、川柳雑誌を主催する。麻生路郎の川柳講座があり、漫画川柳から、初めて、正統派川柳に接することが出来た。その療養生活は、病いと空腹との闘いでもあった。

「空き腹を抱え診察待つ辛さ」

広い院内から、近くの野原を散歩する。遠く列車の汽笛を微かに聞きながら、近くで遊ぶ子等の元気な声が……。

「原っぱの戦さごっこも玉碎し」

来なくてもよい、と言っのに、やはり心配して電車を乗り継ぎ、父母が来る。

「父母の顔不幸の数の皺が増え」

姉がよく蓄音機で、「銀座の柳」のレコードをかけて、唄っていた。その歌詞と、自分の目で見た銀座の街のこの違い？

「決戦に銀座の柳忘れられ」

約一年間の療養生活、そして、暗く緊迫した世情も、終戦を迎え生き返った。あれから四十余年。起伏に富んだ生活に、十七文字の混る日誌は続く。病弱な身を、よく支え励ませてくれたその一つに、川柳は見逃せない。

嬉しい時、楽しい時、十七文字は生き生きと、悲しい時、寂しい時には、その短い文字で慰め励ましてくれる。

長い間、勤めた会社も停年が近づき、色々と過去の出来事が脳裏を去来する。

「停年は冬のブルを思わせる」

そして、現在、シルバー人材センターの会員として、小さな駐車場に勤務。適当に体を動かし、料金計算で、ノンビリとした脳細胞に適当な刺激を与えてくれる。

「暗算で昼寝の脳を揺り起こし」

私にとって、川柳は、健康への活力素、生活の清涼剤としての役目を果たしてくれているのではなからうか。

苦しいなかにも喜び

黒川道雄

私は除草班員として約一年シルバーでお世話になって参りました。

当初は草刈鎌を手にしたのも初めてで除草作業は勿論のこと、雑草と花の

区別にも自信がなく、よもぎと菊のある場所では首をかしげる始末で、先輩方から見れば本当に手の焼けるニューフェイスであったと思います。

そんな私に除草、葉刈班の先輩方は除草のいろはから器具の使い方の技術



和気あいの共同作業で 一日もあつという間に 一原田作業所で

的なこと、或いは客先での心構えに至る迄、懇切に御指導頂き心から感謝いたしております。

当時、私は退職後約一年半家でぶらぶらしておりました。最初の半年こそは在職中考えておりました読書や、ホビークラフトに夢中になりましたが、

或る程度満足してからは、さて今日は何をしようかと時間をもて余し、同時に体重が一〇キロも増え、このままでは、ほけると不安になってきておりました。

丁度そんな時にシルバーの方々に巡り会う事が出来ました。額に汗して懸命に労働される諸先輩の姿を見て自身甘えを知り、仕事に対するまじしさを再び思い起す事が出来ました。仲間入りさせて頂いた作業に汗を流した後の気分は、遊んでおつては味えない爽快なものを感じます。

正直云って真夏の木陰一つない目の眩むような炎天下、或いは師走の風の吹き抜ける冬の野外作業は決して楽ではありませんが、よき先輩、仲間の方々に恵まれ、健康な体で働ける事に感謝しつつ頑張りたいと思います。

今後シルバーを通じて社会との繋りを保ちたく思いますので、事務局を始め会員の皆様方よろしく御願致します。

問われる「幸せ」

野口高茂

今般、超緊縮財政にも拘らず、高齢者雇用安定法の成立によってシルバー人材センターも法制化され、無料職業紹介事業が加わりました。大変喜ばしいことです。人材センター職員の皆様は、いつも笑顔で接して下さり感謝しております。これからも益々多忙になられると思いますが、より一層のご尽力を期待しております。

しかしながら、実際に仕事を通じて社会参加し、それによって「いきがい」を感じるのには、私たちが会員自身であります。幸いにして私達は健康です。そして意欲があります。病床に横たわっておられる方や病弱の方に思いを馳せる時、恵まれているなァーと思います。趣味や娯楽に余生を送っておられる方よりも、社会参加に意欲をもっておられる会員ですから、旨くまとまれば立派な成果が挙がるものと確信しております。

折よく会員の組織化に第一歩を踏み出されました。まことに時宜を得たことと思えます。お互いに集まり、話し合いから始め、親しくなって意思の疎

通を図り、よき友となつて助け合つてゆければと、切に、かつ早急にと願つております。

一方において、私たちは戦争と敗戦による廃虚の中から立ち上り、今日の繁栄に至るまで、ガムシヤラに働いてまいりました。その間色々の事がありました。その間色々の事がありました。その間色々の事がありました。その間色々の事がありました。

社会主義国家は経済から破綻し、民主主義国家は人間の退廃から崩壊すると啓示されております。現在の世情を静視する時、エイズ、麻薬を初めとした諸々の問題は、未完成な人間が価値観の多様化という名のもとに、感覚的、無分別に生きていることにより生ずる崩壊の懸念大である。それゆえに、今日ほど「生きること」「幸せ」の意義を問われている時はないでしょう。

幸いにして私たちは、人格、教養、理性という言葉や哲学によって生きることの追求を教えられ、自ら学ぶことができた。そして数多くの経験を通して身につけてきました。なるべく社会のお荷物になることなく、シルバー世代として尊敬されるよう積極的に働きかけてゆかねばならぬのではないのでしょうか。

社会参加に意欲のある皆様の仲間に入れていただいで幸せてあります。

飯盛山は今……

白浜彦次

飯沼貞吉。飯盛山で自刃した会津藩白虎隊のただ一人の生き残り二十人目の隊士である。官軍との戦いに敗れた白虎隊の二十人が、飯盛山のとつぺんから見たのは、鶴ヶ城を包む火の手と黒煙である。一六・七才の少年達も早これまでと、互に刺し違え、或は自ら腹を切った。一九人は絶命した。右手を負傷していた貞吉は、左手で小刀をとり、のどを突き意識を失った。

貞吉を救ったのは足輕の妻印出ハツである。臆病者と陰口を叩かれ、いたたまれず、明治四年貞吉は唇をかんで会津を去った。二度と帰らぬふる里との決別だった。通信省の技官となり全国を転々とした。昭和六年妻れんに看取られ没した。飯盛山頂の一九人の白虎隊士の墓から、やや外れてポツネんと貞吉の墓がある。昭和三十二年、有志の手で建てられたものである。貞吉は八十六年振りに墓石となって里帰りした。

私のバレンタインデー

西田貞義

私は、この日、三人の女性からチョコレートを頂きました。一つ目は、六才になる外孫娘からです。夕食後テレビを見ながら食べましたが、その甘さの中から、遠い昔のおふくろ（オッパイ）の味が思い出されました。孫娘よ、今度遊びに来たら、お小遣いをドッサリあげましょう。



二つ目は、七十八才のお婆ちゃんからでした。まだ開封していませんが風雪何十年、苦勞と忍耐のほろ苦い味があるだろうなあ。お婆ちゃん、いつもお心遣い有難う。心温まる思いがしましたよ。



さて三つ目は、ご近所の四十才になる美しい奥さんからのものでした。これもまだ包みを開けていませんが、きつとサクランボの様な色をしていて、口の中で甘ずっぱい初恋の味がするに違いないと信じています。



かくして、私のバレンタインデーは、終りました。老人であるこの私の顔も輝きを増し、曲がった腰も伸びたように思えます。雀百まで踊り忘れず、とはこういう事でしょうか。

編集後記

「事務局だより」で作品を募集しましたが、あいかわらず応募が少なく編集に苦勞しました。

毎月発行しております『事務局だより』でも掲載をしますので、今後はどしどし、投稿していただきますよう、お願いいたします。

編集者